

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2026 年 3 月 23 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 教職大学院・院生

申 請 者 名

(学会発表助成の場合は参加者名)

館内 謙昌

助成の区分 (該当するものに○)	学会発表助成・学術出版助成・学術論文発表助成
研究活動名	日本教育保健学会第 23 年次大会
成 果 の 概 要	<p>2026 年 3 月 20 日（金曜日）から 21 日（土曜日）の 2 日間の日程で、東洋大学赤羽台キャンパスにて、「日本教育保健学会第 23 年次大会」が開催された。申請者は 2 日目の一般報告グループ③において、「小学 5 年生を対象とした児童の援助要請の意欲の変容 — 他者の視点の可視化による心理的障壁の低減に着目して —」というタイトルで口頭発表を行った。</p> <p>今回の発表では、体育科（保健領域）の「心の健康」の授業と、児童の記述内容を反映させた 3 通の「心の保健だより」を一体化させた保健教育を実施したうえで、介入前後において、児童の援助要請の意欲が高まるかどうかを検証した内容について報告した。</p> <p>発表終了後、質疑応答を経て、植田誠治氏（聖心女子大学現代教養学部にご所属）から、「研究協力が得られにくい領域である中、貴重な実践をしてくださった」とお褒めの言葉をいただいた。一方で『『ストレス』という言葉は現行の学習指導要領では中学校から出てくるため、小学校の段階でどの程度まで、児童に説明するのかを考えていく必要がある」というご助言もいただくことができた。さらに、現在、山口県内の学校にご勤務されている養護教諭、筑波大学大学院 人間総合科学学術院に在籍されている院生、日本体育大学助教および教授、東北福祉大学准教授の方々とつながることができ、私の方から、今後の共同研究の打診や逆にお誘いをいただくことができた。</p> <p>今後は、地域性、異校種との回答の比較などを行いながら、論文投稿などを行い、さらに成果を還元していくことができればと思う。</p>